

## メーブルレター(45)

### 秋の良き日に良いことが

秋も深まり、そここで紅葉が始まりました。窓から見える木々も黄色く染まっています。例年なら、豪華客船が入れ替わり立ち替わりやってきて賑わぐ港の風景も、今年はコロナのせいで訪れる船も観光客もなく、ひっそりとした佇まいです。そのせいか、古都の落ち着いた雰囲気に戻り、風情が美しく奏でられています。

コロナの第二波の始まりかけた晩秋のある週末に、義理の長男が再婚をしました。結婚式は、モンリオール全景を眺める展望台で行われました。集合のかかった場所が展望台だったため、一体どうやって、この公の、人の賑わう場所で結婚式が執り行われるのか、疑心暗鬼でした。

パーキングからこんもり木の茂る丘を、「室内は駄目とはいえ、何故こんな所で結婚式をするのかしら？」と、ヒールにあたる土や砂利を蹴っ飛ばしながら、ブツブツ文句を言って歩くこと20分、正装したマダム田中の目の前に、モンリオールを見渡すパノラマが広がりました。空は、晴れ上がり、青く澄み渡っています。集まっている人達も見えてきました。

「あーなるほど、この見事な風景をバックに新しい2人の人生を始めたかったんだね。良い写真が撮れそうだね。」

ドリトル先生は、泥道で汚れた靴を拭いながら、しきりに頷いています。晩秋の晴れやかな良き日です。それにしても、風が強く、寒いこと。ウエディングドレスの花嫁やブライダルメイドはノースリーブの薄着です。凍えて震えています。

指輪交換、誓いの言葉、入籍の書類にサインなど、一通りの儀式が終わると、泡も風で吹き飛ばす展望台で、シャンペンでお祝いの乾杯です。その後は、再び土や砂利を蹴飛ばしながらパーキングに戻り、披露宴会場のレストランへと移動です。

コロナ騒ぎの中ですから、人数は限られています。友人夫婦、上司の夫婦、両親、子供達など24名が招待されました。レストランに入る時はマスクをつけ、立っている時はマスクをつけ、座っていればマスクを取っても良いと言われ、取ったりつけたり、忙しいこと。同じ場所でも立っている時にマスクを外そうものなら、係員に怒鳴られます。

孫2人に挟まれ、その向こうに娘夫婦が座り、他の近親者2-3名を含むドリトル先生一家のテーブルは、賑やかです。飽きてきた孫たちは、娘にメニューの紙で飛行機を作ってもらい、ブーンブーン飛ばしています。ドリトル先生は、

「どれ、どれ、猫ちゃんの絵もそれに描いてみよう。猫ちゃん紙飛行機だぞ。」

更にブーンブーンです。孫娘はおしゃべりをやめず、興奮が冷めないのか、デザートのカッキーを持って移動しようとして、パーッシャーン、見事に床に落としてしまいました。青ざめているとボーイが慌てて飛んできて、新しいカッキーと替えていきました。

「ほら、もう一度ひっくり返したら。」

ドリトル先生の一言に大笑いをする、安心したのかカッキーにかぶりついています。孫たちは、1週間おきに(こちらでは、離婚後も平等に育児を分担し、1週間ずつ引き取る家族が大半です)暮らす父親の家では、それなりに新しい家族との暮らしに苦労し、我慢しているらしく、初めてお母さん(元嫁)」の話をしていました。

「お父さんは大好きだけど、お父さんの家ではよく眠れないんだ」と男の子の孫が言っていました。このディナーは孫達にはゆっくりと自分の心の中を話せる、大事なひと時だったようです。

「マミー和子(和子ばあちゃん)、鮭の握り寿司と甘い卵焼き大好きだよ。」

「お父さんの所に来る時はいつも必ず持ってきて」

と、二人に念を押されました。この子達には、お料理が美味しいより、一種の愛の証のようなものなのでしょう。大きな自分の部屋があってもどこか遠慮しがちに暮らす中で、自分のことを考えてくれる居心地の良さがあるのかもしれない。

合わない2人が結婚生活を続けるのも難しく、新しいパートナーとの双方子づれの再婚も難しく、どこかで誰かが辻褄をあせることになるのかもしれない。元嫁も良い人でしたし、新しいパートナーも良い人です。双方の子供達も良い子達です。時の流れのなかで、ゆっくりと調節できるようになるまで、少しだけ孫達の心のヘルプをしていくことになりそうです。

義理の長男はその後、猫(ブランド物)をマダム田中に預けると(ドリトル先生は獣医ですが、動物の身の回りの面倒はみません)、近場の新婚旅行に出かけていきました。マダム田中はレンタル猫の世話に明け暮れています。

巷のコロナの第二波の勢いの強さに、政府は、10月1日より、28日間(14日間の自宅待機が二回ということでしょうか)のバー、レストランなどの飲食業の閉鎖及び市民の訪問禁止を決めました。企業やお店は営業していますが、レストランは閉まり、友達も親戚も訪問できません。自主隔離ほどではありませんが、制限が強化されます。度重なる規制にやや疲れ気味です。

9月30日、真夜中の規制実行まで数時間の秒読み状態のなか、モントリオール総領事館公邸にて、いけばなを通しての、カナダと日本の相互理解及び友好関係への貢献への表彰状をいただきました。大変名誉なことです。その後の夕食会は、地元産の風味たっぷりの松茸を使った料理を味わいながら、楽しく過ぎていきました。

規制実行まで残り2時間というところで、年とったシンデレラにつきそう、年取ったプリンスの車がかぼちゃにならないうちに万感の思いで、帰宅の途につきました。滑り込みセーフです。